



第111号(昭和40年6月15日発行)

表紙を飾るのは、ビニールハウスで育ったトマトを収穫する、第6区（現菊水区）の中川稔夫妻。滝川魚菜市场への出荷が、3年連続で空知管内の1番乗りだったと伝えています。

当時は、毎月1日と15日の発行で、B5版2ページの構成でした。金属活字によって紙に凹凸ができていたのも、昭和中期の温もりと言えるのかもしれません。

この年の主な出来事

獅子神楽保存会設立総会（8月28日）

人口 12,666人

町長 濫川 勝石さん

議長 鈴木源太郎さん

17号

1月1日に『町だより』の名その後、昭和38年12月25日発しんとつかわ』に改め、現在れています。

51年半の歳月をかけて、本迎えました。そこで、号ぶ過去の広報誌を振

第222号(昭和44年12月10日発行)

年末年始を間近に控え、悲惨な火事を根絶しようと火災予防がトップ記事になりました。写真は中央保育所での消火訓練。中面は犯罪防止と交通事故防止となっており、皆さんの安全安心がテーマの1冊になっています。

発行頻度は月2回のみですが、発行日が10日と25日に変わっています。ページ数は2つ増えて、B5版4ページ構成。

この年の主な出来事

新十津川農業高校が全日制に（4月1日）

人口 11,141人

町長 濫川 勝石さん

議長 鈴木源太郎さん



第333号(昭和50年6月15日発行)

表紙の女性は、町内在住の成田素子さん。新十津川農協の金融窓口で笑顔で接客しているところです。昭和50年度は「表紙の人」と題して、読者からの推薦を受けて町内で活躍する男女を取り上げるシリーズを展開していました。

発行頻度は月1回になりましたが、表紙などが2色刷りとなり、ページ数も大幅に増えてB5版12ページになりました。

この年の主な出来事

知的障がい者更生施設吉野園開設（6月2日）

人口 9,740人

町長 濫川 勝石さん

議長 堀 清隆さん

333



第666号(平成14年6月1日発行)

今も昔も変わらない新十津川町の春の風景、田植え。挑戦しているのは吉野小学校の児童たちです。

中面では、国保の特集が生まれ、高齢化社会の到来によって医療費が増えていることや、生活習慣を見直して病気を予防することが訴えられています。

紙面は一回り大きくなってA4版に。表紙裏表紙フルカラー、中面3色刷りは現在と同じスタイルです。

この年の主な出来事 滝新橋渡橋式(3月29日)
北海道少年剣道錬成大会中学生の部で
尚武館チームが優勝(7月2日)

人口 8,046人

町長 安藤 君明さん

議長 松葉 孝文さん



第555号(平成5年3月1日発行)

第2回しんとつかわゆきまつり的一幕。4人1組でスキーに乗るむかで競争で、選手も観客も盛り上がっています。まつりでは、アイス早食い競争や雪合戦も行われていました。

全面白黒、B5版22ページ構成。

この年の主な出来事

サンスポーツランドしんとつかわ竣工式
(4月27日)

新規就農者技術習得センター落成式
(11月4日)

人口 8,645人

町長 安藤 君明さん

議長 久保田文雄さん

通算 77

本町の広報誌は、昭和35年で第1号が発行されました。行の第74号で、誌名を『広報』もその名で皆さんに親しまい、今月、第1号の発行から誌は通算777号の節目を数に同じ数字が3つ並び返りました。

第444号(昭和59年1月1日発行)

初詣に訪れた女性の振袖姿が色鮮やかな新春号には、町長と議長のあいさつだけでなく、初代町長で名誉町民でもある島田薫さんのあいさつ「故郷の発展を思う」も掲載されています。

裏表紙では、町づくり懇談会への参加を呼び掛けています。当時は、次年度予算作成中の1月に、4地区で開催していました。

1980年代は、1月号に限って表紙と裏表紙がフルカラー。B5版8ページ構成。

この年の主な出来事

幌加尾白利加川でクジラの化石発見(8月10日)

人口 9,297人

町長 山口 諭さん

議長 堀 清隆さん

